

津波対策の主なハード施設整備計画 H24~H26

	24年度	25年度	26年度
岸本防災コミュニティセンター	工事		
吉川防災コミュニティセンター	設計	工事	
吉川総合センター屋上避難場所整備		工事	
避難タワー	3基	3基	2基
避難路・避難高台	7カ所	10カ所	10カ所
備蓄倉庫		1カ所	
ソーラー照明灯	12基	12基	12基
デジタル防災無線	設計	工事	工事



上写真…四万十町興津にある避難タワー。海拔約15mで約150人が避難できます。
下写真…夜須町手結に設置された避難階段。

市では、昨年5月に南海地震対策推進本部を設置し、南海地震対策の見直しや実現可能な対策、優先課題の抽出などを行い、新年度予算に反映させました。

「今すぐできること」を実践した昨年

まず昨年は、「今すぐできること」として、自主防災組織、保幼小中学校や各種団体等の講演および防災訓練等を82回行うなど、市民への啓発を行いました。さらに、南海地震フォーラムの開催、災害時緊急情報携帯メール配信事業、衛星携帯電話購入、防災無線2カ所設置、吉川総合センター自動開錠装置整備、避難場所等へのソーラー照明11カ所設置、海拔表示看板設置、赤岡別所山避難橋および手続避難階段の整備を行いました。また、避難場所を今までより安全な所に変え、自主防災組織に防災訓練での検証を行っていただき、避難場所や避難路等の要望を伺いました。

今年「計画的に行うもの」を先行

そして今年、「計画的に行うもの」として優先順位の抽出を行った防災対策を先行していきます。そのために必要となる、中央防災会議および県の次期南海地震の地震津波の新たな想定が、前倒して年内に発表されることとなりました。また、平成24年度から2年間、緊急防災・減災事業債および県津波緊急避難対策推進事業費交付金など、非常に有利な起債および交付金が創設されました。

このような状況の中、中期財政計画の防災関連事業を2年から3年前倒しして実施することといたしました。

詳しい内容は左表参照。

平成24年度の防災関連予算

13億6,336万円

繰り越し事業…H23年度から繰り越したもの

- ◆岸本防災コミュニティセンター (207,053千円)
(24年度…監理、家屋調査、整備工事)
- ◆吉川小学校屋内運動場耐震補強事業 (38,200千円)
(24年度…設計監理、耐震・改修工事)
- ◆橋梁耐震補強工事 (46,000千円)
(赤岡町「おおさと橋」、香我美町岸本「岸本橋」)
- ◆吉川防災コミュニティセンター整備事業 (17,626千円)
高台のない吉川地区に、津波避難場所を備えた施設を整備するものです。
(24年度…設計、地質調査 25年度…整備工事)

- ◆津波避難道・避難場所等整備事業 (21,000千円)
津波避難について、避難時間短縮および安全安心な避難ができるよう自然の高台や山への津波避難道・場所等を整備するものです。(7カ所を予定)

- ◆避難タワー整備事業 (249,326千円)
吉川町、赤岡町、夜須町の高台のない密集住宅地へ、津波からの一時避難場所として、避難タワーを整備するものです。タワーの高さ約15m~20mで、収容人数は100~700人。

- ◆津波避難場所照明設備等設置事業 (16,800千円)
夜間の災害に対応するため、津波避難場所等ソーラー照明を設置するものです。

- ◆防災対策基金 (500,000千円)
防災、減災、災害復旧・復興、被災地支援などのために要する経費に充てるため、基金を造成するものです。

- ◆海拔表示看板設置事業 (6,000千円)
市民の津波避難啓発および避難時の目安となるように、市内の市道に海拔表示を設置するものです。
- ◆住宅耐震診断事業 (2,295千円)
昭和56年以前に建築された木造・非木造住宅の耐震診断を行うものです。
- ◆住宅改修助成事業 (55,000千円)
耐震診断を実施した結果、評点が1.0未満と診断された住宅の耐震補強工事に対し、90万円を限度額に補助するものです。(50棟分を予算化)

- ◆みんなで備える防災総合補助金 (7,800千円)
自主防災組織の新規設立に対し補助するものです。(13組織分を予算化)

- ◆防災行政無線整備事業実施設計委託事業 (17,115千円)
デジタル同放系の防災行政無線を市内全域に新たに整備するするため、実施設計を委託するものです。

- ◆備蓄用品購入事業 (7,640千円)
災害に備え、備蓄用品(食料品、毛布、仮設トイレなど)を購入するものです。

- ◆東日本大震災復興支援職員派遣事業 (696千円)
東日本大震災の復興支援として宮城県女川町に職員を派遣するものです。

- ◆自主防災組織東日本大震災現地視察研修事業 (3,063千円)
自主防災組織の代表者等40人に、次期南海地震に向けての各地域の防災体制づくりのリーダー育成の一つとして、東日本大震災で被災した地域を視察するものです。

- ◆防災アドバイザー設置事業 (200千円)
津波避難ワークショップおよび自主防災組織等で専門的立場から津波避難指導・助言を得るために、外部アドバイザーを置くものです。

- ◆津波避難計画策定委託事業 (8,012千円)
次期南海地震の津波想定に伴い、ワークショップ開催による市民からの意見収集やハザードマップの修正など、津波避難計画の作成を委託するものです。

- ◆農村災害対策調査計画策定委託事業 (10,000千円)
2年間で自主防災組織や市民とのワークショップを通じて、危険箇所の調査や減災・避難計画を作成するものです。本年度は、野市町を除く4町の沿岸海岸で実施します。

- ◆耐震性防火水槽整備事業 (6,000千円)
(野市地区へ40tの防火水槽を設置する)
- ◆消防団小型動力ポンプ付き積載車購入 (9,320千円)
(夜須第1分団の積載車を老朽化に伴い買い替える)
- ◆赤岡小学校屋内運動場改築設計監理委託事業 (16,300千円)
津波で浸水しない高台に小学校体育館を新築するにあたり、設計監理を委託するものです。
- ◆香我美市民館耐震補強設計委託事業 (7,882千円)
香我美市民館の耐震化に向け、耐震補強工事の設計を委託するものです。
- ◆マリホール客席天井補強事業 (24,199千円)
マリホール天井の滑落を防止するため、天井補強工事の設計監理を委託し、天井補強工事を行うものです。
- ◆北部会館改修事業 (3,422千円)
夜須町夜須川にある北部会館の改修に向け、改修工事の設計を委託するとともに、現会館の用地を購入するものです。
- ◆西川公民館新築事業 (82,414千円)
香我美町西川にある西川公民館の改築のため、工事の監理を委託し、公民館の新築工事を行うものです。



岸本防災コミュニティセンター完成予想図…最上階の屋上は海拔約15mで500人が避難できます。



赤岡小学校の西側にある「おおさと橋」。昨年、小学校はこの橋を渡って城山高校へ避難する訓練を行った。